

**【2004年度計（2004年4月～2005年3月分）実績概要】**（文中の％は前年度比）

1. 主要装置別の国内市場

- ・ 診断用X線装置は101％であった。
- ・ CT装置は96％と減少した。
- ・ 診断用核医学装置は172％と引き続き大きく増加している。伸びの主なものはPET 232％であった。
- ・ 診断用磁気共鳴装置（MRI）は94％と減少した。年間推移によると4～6月期64％、7～9月期84％、10～12月期85％、1～3月期135％と第4四半期のみ大幅な伸びを示したが、2004年度全体としては減少した。
- ・ その他の診断用画像処理装置は99％となり、横ばいであった。
- ・ 超音波診断装置は104％であった。

2. 国内市場はPETの検診市場への急速な拡大傾向はあるものの、2003年度とほぼ同じとなり横ばい傾向である。

3. 2004年度の生産高については、診断用核医学装置の大きな伸び（208％）及びその他の診断用画像処理装置（120％）、超音波診断装置（115％）、MRI（110％）の伸びにより、108％となった。

4. 2004年度の輸出高については、全体で118％と伸びを示した。

5. 2004年度の輸入高については、診断用核医学装置が大きく伸び（161％）、またCT装置も伸びており（115％）、全体として増加した（103％）。

6. 2005年度についても、総医療費の抑制の国内環境が続くため、国内市場の積極的拡大要因が見当たらず依然横ばい傾向が続くと考えられる。